学園都市古文書研究会

第7号
2016年6月10日発行

発行：学園都市大学古文書研究会
発行責任者：代表　吉田健一

公開講座
「古文書は歴史学の第一歩」
～活字からでは得られない情報の宝庫～

一般社団法人古文書解読検定協会代表理事
小林正博氏

毎年恒例の一連行事である記念講演―会員総会―懇親会が四月二三日に開催され、記念講演として小林正博顧問による「古文書は歴史学の第一歩――活字からでは得られない情報の宝庫」が1時半から始まった。参加者は180人にも及び、これで第一回の中尾堯顧問の講座参加者203名（年間の公開講座53講座中第一位）を最大結集として、第二回・馬場憲一顧問の講座が181名（同69講座中第一位）、第三回・西海賢二顧問の講座が130名（同63講座中第五位）と当会顧問の講演は、いちょう塾に大きく貢献しつづけている。そしてまた古文書に関心のある方たちがたくさんいることも心強い限りである。

さて講演では、小林顧問が立正大学に提出した博士論文「日蓮遺文の基礎的研究――古文書学と文献学からのアプローチ」の中から、その成果の一端やエピソードなどが語られた。特に印象的だったのは、活字化された日蓮遺文集が正しく日蓮が書いた文章そのものと思われているが、それは違うというものだった。2700枚もの現存する日蓮の真蹟文書を一字一字ていねいに解読していった結果、現在伝わる日蓮遺文集には多くの誤読があることを指摘し、活字への妄信に警鐘を鳴らした。ここにこそ原文にもどることの大切さ、古文書学習の重要性と意義があると強調。「古文書学習は歴史学の第一歩」であると参加者に訴えた。後半は、解読問題に挑戦するコーナーも入れて解読力向上のための三段階①字体に慣れる②古語を調べる③筆癖を把握する、を挙げ、それぞれ興味深い具体例を示しながら進められた。最後に小林顧問の最新著作『実力判定　古文書解読力』（柏書房）が紹介され、いよいよ七月からはじまる「古文書解読検定」についてのアピールで締めくくられた。

第四回会員総会

出席者三六名

四月二三日八王子学園都市センター・イベントホールにおいて、小林正博先生のご講演に引き続き、当会の第四回会員総会が開かれました。三六名の出席がありました。

最初に吉田健一代表から挨拶がありました。その中で、予定していたホームページのプログラムが、四月から七つすべてが稼働し始めたこと、プログラム開発に補助金（十万円）を提供していただいた八王子市に実績報告書を提出したところ、概ね評価がよかったとの報告がありました。

次に、ご来賓の八王子市教育委員会生涯学習スポーツ部長小柳悟様から、ご祝辞をいただきました。「いつでも、どこでも学習」という目標に向けて、当会の活動はぴったりであり、歴史の研究には古文書の勉強が欠かせないこと、中核市への移行について、市政百周年について等のお話しがありました。

その後、吉田代表から二七年度活動報告並びに決算報告がありました。続いて、吉田代表より議事である第一号議案　二八年度事業計画案、第二号議案　二八年度予算案につき趣旨説明があり、満場一致の拍手で承認されました。

次に吉田代表から本年度の課題として、ホームページへの掲載データの維持・追加の組織化、人事配置のルールについてのお話しがありました。

最後にもう一人のご来賓、当会顧問の中尾堯先生からご祝辞をいただきました。これまでの古文書研究を振り返られ、旧暦・新暦の違いを理解し、季節をきちんと把握することが大事である等のお話しがありました。

この後、グループ別の写真撮影があり、四時半から場所を変えて、懇親会が和やかに開催されました。